

準備して行ったもの …しておけば良かったもの



風邪を引きやすい季節になってきましたが、お元気ですか？

風邪なんか引かないように！！もうすぐ冬休みです！

さて、今回のR2のテーマは「準備しておけばよかったもの、しておけば良かったもの」です。

派遣先で必要なもの、1年過ごすのだから、何から準備しようか・・・

見当がつくようで、なかなかイメージできない。

帰国報告書にも、持っていたお土産などが記載されていると思いますが、実際に生活をした上で、派遣先で役に立ったものを体験談と共に紹介しています。

また、特集では、皆さんが気になる学校生活において、

勉強克服方法を取り上げました。

ぜひぜひ今のうちから参考にしてみてください。

おぐり まさひろ

小栗 正裕 【2000年度アメリカ派遣】



困難にぶち当たった時こそ…

準備したものの、というテーマですが、僕が準備したことはもう時代遅れかもしれませんし、なによりあまり覚えていません。そこでお土産などの情報は他の人にお任せするとして、僕からは心構えについて書きたいと思います。

交換学生になる上で必要なことは、語学力や学校の勉強ができる能力ではないと思います。語学は現地にいる間に上達しますし、重要なのは言葉の流暢さではなく、何を話すかだと思うからです。

それは付け焼刃の知識などではなくて、あなたがこれまでの人生で培ってきたものであって欲しいと思います。もちろんみなさんはまだ高校生、日々成長著しい年代ですから、これから出発までの短い期間でも、一人の人間として大きく成長できるはずですよ。

また、海外で1年間暮らすということはやはりストレスのかかる状態であると思います。周りの環境は全て変わります。その時に変わらないものは、突き詰めれば自分自身しかいません。

1年の間にはいいことばかりではなく、つらいこともあると思います。物事が順調なときに調子がいいのは当たり前で、人の真価が問われるのは辛い時や、物事が上手くいかない時です。

今からできる準備の1つとして、情報を集め、いろいろな状況をシミュレートしてみる方法があります。辛い時どのように乗り越えたかななどを ROTEX に聞いてみてください。いろいろな状況を考えておくことで、実際にそのような場面に陥っても対応しやすくなります。

困難は、それを乗り越えられる人にだけ与えられるといいます。あなたが今後どのような困難にぶち当たっても、きっと諦めずに解決策を探して欲しいと思います。ROTEX も出来る限りのサポートをします。

うたがわ かおり
宇多川 薫 【2002 年度アメリカ派遣】



好きなことから広がること

準備してよかったものとして、宮沢賢治とサッカーを紹介します。これら2つは私の好きなものです。宮沢賢治の話の中でも「雨ニモマケズ」が一番好きでした。たまたま英訳されたものを持っていたので、自分で絵を加えて英語と日本語で書いたものを派遣先に持って行きました。スピーチをする時があれば、一緒に読んでいたと思います。ある時、ロータリーの地区大会があり、フランス、ベルギー、岐阜から来た他のロータリー学生と一緒に、それぞれを母国語である仏・日本語に英語を加えながら暗唱しました。「感動したよ！」とロータリアンの方から言われた時「あ～、伝わったんだなあ。」と嬉しかったのを覚えています。日本の物語、小説が英訳された本は本屋さんにはたくさんあります。もしかしたら他の言語でもあるかもしれません。ハリー・ポッターの日本語版を持って行っても感動されると思います。また、訳されていないでも、自分の好きな本やCD で気分が落ち着くこともあります。

それから、サッカーについてですが、私はアメリカでサッカーをやるってことが夢でした。派遣先の高校で、常に Varsity (一軍) チームで試合をしていた訳ではないけれど、サッカーのおかげで友達もできました。出会えたコーチ、逆転で勝った試合を今でも忘れません。

私がここで伝えたかったのは、留学の準備というのは必ずしも、自分に足りないものを補うばかりではありません。もちろん物質的に準備しなければならないものもありますが、自分の好きなこと、派遣先でやりたいことに磨きかける事も大切な準備だということです。ちなみに、私の同期の中には、派遣先で琴を披露すると野心を燃やしていた子もいました。

こばやし ゆうき
小林 侑樹 【2005 年度ロシア派遣】



日本で備える寒さ対策

ロシアに派遣される生徒は何かと不安が多いと思います。特にロシアと言えば冬。防寒用具の用意が必要になってきます。ですが、だからといって日本で何万円もするコートやブーツを持って行かなくても大丈夫です。上着類は現地で調達した方が値段が安く、おまけに毛の着いたとても暖かい物を手に入れます。日本からは保温性の高い下着類を持っていくよ良いでしょう。もちろんロシアでも購入することは出来ますが日本の方がサイズも合ったり丈夫な物が多いです。特に、ももひきの様な下着は冬場必需品です。靴下も毛糸で出来た暖かい物を持ってい

く事をオススメします。昨年などウォームビズで保温に優れた物が出回っていたので今のうちに買いそろえておく
と良いでしょう。逆に家の中はセントラルヒーティングで布団一枚でも寝られる環境なのでそこまで心配する必要
はありません。

日本を紹介する物は日本の車やアニメが大好きなのでそれらの雑誌を持っていくと良いでしょう。生活用品は場
所によっては、日本製品が多く出回っていて買うことが出来ます。実際僕が派遣されていたサハリンでは日本製の
化粧品やシャンプー・食品が売られていました。他に日本を紹介する本も何冊か持っていくと役に立ちます。

ひらいたかし

平井貴史 (2005 年度フランス派遣)

おすすめ、旅の指さし会話帳

はじめまして。みなさん交換留学候補生決定おめでとうございます。留学が決まったとあってわくわくあればど
きどきもあることでしょう。私の話は一例にすぎませんが、みなさんの参考になれば幸いです。

まず始めに勉強道具についてお話しします。私は文法書と旅の指さし会話帳を持っていきました。文法書は、神
楽坂ちかくの東京日仏学院や飯田橋にある欧明社という本屋で仏語辞典を探しにいった時、店員に勧められたもの
を買いました。手軽に持ち歩けるサイズの小さな本です。こういった本屋の店員さんは仏語に堪能なので尋ねるとよ
いかもしれません。旅の指さし会話帳には様々な場面に対応した表現が載っていますが、砕けた表現や急病、緊急
の際の表現が書かれているのでとても便利です。

また、フランスへ行ってからですが、スーパーで動詞活用の本を 3 ユーロ程で買いました。動詞の活用は日本人
にとって悩みの種なので、本を買うのはいいかもしれません。

お土産で喜ばれたのは、江戸風鈴、こま、けん玉です。伝統的な遊び道具は何歳でも楽しんでもらえます。少ない
のですが、私からのアドバイスはこんなところです。

聞きたいことがあったら気軽に連絡をください。一緒に皆さんの留学がより良いものになるよう協力していきま
しょう。

うすい ゆい

薄井 唯 【2006 年度 スウェーデン派遣】

手軽に自己紹介アルバム

派遣生となり、出発までの間に家族や住んでいる街、学校など自分の身の周りのことや、よく旅行に行く場所・
歴史的な場所・日本の文化・・・などを 1 冊のアルバムにまとめました。作り上げるのに少し時間がかかりました
が、コメントを加えたり、見やすく工夫しておいたので、派遣先で家族や友人などに日本のことや自分のことを紹
介するのにとても役立ちました。アルバムは持ち運ぶのが簡単なので、人数の少ない教室で日本紹介を行うとき
には、そのアルバムを囲んで話をしたこともあります。アルバムにまとめなくても、多くの写真を撮っておくことは
大切だと思います。

また、派遣先ではよく住んでいる街や東京の人口などを数字で聞かれるので、調べて覚えておく必要があります。
家から東京までの距離やどのくらい時間がかかるかは知っておいたほうがいいですよ。その方が、日本と現地との
比較が出来てわかりやすいです。

Editor: Kaori Utagawa Layout: Naoko Takahashi Desk: Yuuki Kabayashi and Ikko Nishiyama

意外に役に立つ、日本の制服

お土産等

・ コマや折り紙などの伝統的なおもちゃ、「日本」が伝わる様なアクセサリー、自分の住んでいる市のパンフレット、自己紹介用の紙芝居、日本で流行している曲を入れたCD

勉強に関するもの

・ 単語帳、会話本、CD等ですが、

実際に一年間住んでみて必要だなと思った物は、学校の制服(皆珍しがりますし、何かと便利)、ロシア語検定の参考書・学校の写真(授業風景等)

最初は語学力も無いですし、特に気をとめていなかったのですが、言葉が喋れる様になるにつれ細かい文法も気になり出しました。ですから、ちょっと難しそうでも文法や検定の本は必ず持って行った方が良いかと思えます。また制服ですが、フォーマルな時には大活躍しますし、珍しいので荷物に余裕があれば持って行けば良かったなあと思いました。行く国々で必要なものは変わってくるかと思えますが、とにかく事前準備は丁寧に行うことが大切です。特にロシアでは、日本では当たり前なものも売っていなかったり、値段が高かったりするので、日本で全て揃えて行った方が後で困らないかと思えます。

不安はたくさんあるかと思えますが、そんな時は先輩を頼り、準備を進めて行って下さいね。

小ネタ特集

留学先で気になるのが、やっぱり学校生活についてですよね。今月号から数回に分けて、学校生活についての特集を企画しました。今回は勉強編です。

学校の勉強の克服方法を ROTEX に聞いてみました。



学校の勉強どうしてたの？



アメリカ

- ・ 日本から持ってきた参考書を読んで見たり、暗記系は難しかったけど、辞書を引きまくれば、どうしてもわからない、というのは少なかったと思います。
- ・ 初めはホストファミリー、友達に相談していました。どうしても分からない時は正直に先生に言いました。1年でネイティブのみんなに追いつかないのだから、自分で線引きをしていました。
- ・ 先生に相談し、別課題をこなすように努力した。日本から本をお願いして送ってもらったりもした。(アメリカ史)
- ・ 1つ1つ単語を辞書で調べていった。そのうち分かるようになってきた。
- ・ 最初は聞き取れないと思いますが、毎日の授業を理解しようと努力していれば、ある日突然聞き取れるようになりました。それまでは、先生やホストファミリー、友達に教えてもらいました。
- ・ 学校の勉強は現地の学生と同じように、宿題もテストもやっていました。さらに予習復習も。実際自分はまじめ過ぎたところがあったと思います。まわりの現地の人間達は不真面目に宿題、テストをこなしていましたから。

- ・ 州 TOP 10 の学校だったので毎日たくさんの宿題が出ていました自分なりに精一杯やっていたら評価してくれるので辛かったけど楽しかったです。

オーストラリア

- ・ 自分でインターネットや本を利用して勉強することが多かったのです。どうしてもわからない時はホストファミリーの方に手伝ってもらったり、友達と一緒にやったこともありましたが、わからなかった時は先生にどんどん授業中でも質問してもOKだと思います。現地の先生から、「日本では授業中に質問する」という習慣はないのか？などと質問をされたことがありました。
- ・ 美術や音楽は「歴史」を学ぶこともありましたが、良くわかりませんでした。美術では絵を描いたり、音楽ではバイオリン、歌といった実技をがんばりました。ほとんどの授業はプリントが配布され、また先生や友達が親切に教えてくれたので乗り切れました。ただ課題や小テストが多いので辞書は常に持っていたほうがいいと思います。

カナダ

- ・ 常に電子辞書を持っていました。音楽やクッキング、数学などあまり多くの単語を必要としない教科を選びました。
- ・ 正直に言うと、自分が出来るものだけを提出しました。それを先生が評価して成績出してくれていたのが良かったです。また私の学校には ESL のクラスがあったため、ESL の先生の協力によってエッセイやプレゼンの準備を一緒にやったりもしていました。数学などの面ではホストファミリーに意味を聞いたり、またクラブの当時の会長が元数学の教師だったのもあって教えてもらいに行ったりもしました。

韓国

- ・ 友達と同じように授業を受けた。授業中はずっと電子辞書を使いながらであったが、数学などはみんなと同じようにできた。国語と文学の時間だけは、授業を聞かずに自習していた。中間・期末テストも友達と同じように受けていたので分からないところは友達に聞いていた。
- ・ 学校側から授業に参加するようには言われず、最初は教科書ももらえなかったので授業中は自習（韓国語の勉強）していましたが、分からないところはひたすら友達に聞き続けました。

台湾

- ・ まだ言語能力が低かった時には、授業中には、派遣先の言語の勉強をしていました。ですので、ある程度言葉が話せるようになってから授業を受けたので、分からないところは質問しました。

スウェーデン

- ・ 先生や友達・家族にいつも質問に行き分からないところを教えてもらっていました。

フランス

- ・ 最初の方はホストファミリーによく教えてもらっていました。途中からは、英語・体育・数学以外の教科についてはまったくついていけないことに気付いたので、自分で授業を無視してフランス語の勉強を教室の中でしていました。分からないことを分からないと自分で断言しちゃって、少し現実逃避していたのかもしれないので今思うともう少し、学校の勉強も頑張っておけばよかったのかなあと思ったりもしています。あと先生にあまり質問していなかったのも、もっとしてもよかったのかなって思います。

ブラジル

- ・ 私の場合、学校で特に勉強をする指示はありませんでした。なので、とりあえず、授業に出席し、授業を聞き、まずはポルトガル語を話せるようになることが第一でした。時々、あまりにも何もしないのはよくないと思い、数学などの宿題にトライしたりしました。実のところ勉強を現地の子と同じようにガッツリやるという事はありませんでしたが、もし学校で勉強を強いられなかった場合、自分から先生に求めたりしたらいいと思います！誰かに聞くことが大切だと思います！と、とりあえず、はじめのうちは、言葉も何がなんだか分からないと思うので、焦らずで大丈夫だと思います。

- ・ 学校では聴講生としての参加だったので勉強はしませんでした。

ロシア

- ・ 基本的に僕は学校で留学生扱いをさせてもらい、みんなと一緒に参加した勉強は英語と体育とパソコンと日本語しかありませんでした。とりあえず派遣当初は、全く言葉が分からなかったのが半年ぐらい学校でロシア語を猛勉強しました。ロータリーの留学は決して語学留学ではありませんが、現地の言葉をマスターすることが学校生活や普段生活乗り切っていく一番の解決方法だと思います。
- ・ 学校の勉強はしなくていいと言われたので、基本的には授業に簡単に参加する程度でした。英語や数学など分かる分野だけ適当に参加していれば別によいかと思います。

なるほど。



先生や友達、ホストファミリーにどんどん聞いて克服していったみたいですね。分からないままにしておく方が、後々大変かもしれません。心配せず、分からないことは、聞いてみましょう。



R²は当 2780 地区多くのローテックスの方々、
ガバナー事務所の協力を基に発行されています。
多大なる尽力に感謝いたします。

R²編集長： 宇多川薫 (2002 年度アメリカ合衆国)